

鼻が詰まったり風邪を引いたりするとにおいを感じにくくなる。この状態が続けば「嗅覚障害」の恐れがある。視覚など別の感覚で補えるので生命に関わる場合は少ないが、飲食を楽しむなど生活の質は大きく損なわれる。放置すると治りは遅くなる。「おかしいな」と感じたなら早めに診断を受けるのがよいだろう。

### 半数は副鼻腔炎

嗅覚障害の原因で一番多いのが副鼻腔(びく)炎だ。蓄膿(ちくのう)症ともいう。「来院する人のだいたい半数が副鼻腔炎。次いで風邪を引いた後においを感じなくなる人が約2割、頭部の外傷による人が1割ぐらい。原因不明も約2割と結構多い」。嗅覚障害に詳しい金沢医科大学の三輪高喜教授は、患者の内訳をこう解説する。

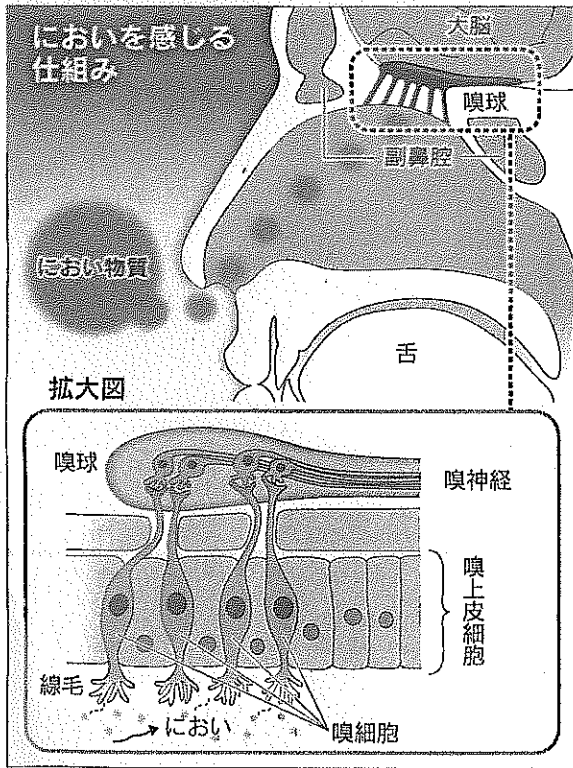
顔の骨には鼻とつながった空洞(副鼻腔)が大きく4つあり、鼻の中が乾燥しないよう湿度と温度を調節している。副鼻腔の内面は粘膜で覆われ、風邪などをきっかけに炎症を起こす。腫れて空気の通りが悪くなり、においの成分を受け取る嗅細胞にまで届かなくなってしまう。

炎症の副産物として、空気の通り道に「鼻茸(たけ)」と呼ばれる良性のポリープができるケースも多くみられる。炎症を放置すると嗅覚神経にまで広がり、においを感じる機能まで低下する。

風邪をひいた後においを感じなくなる症状は、ウイルス感染によって嗅細胞や嗅神

## 原因分かれば早期回復

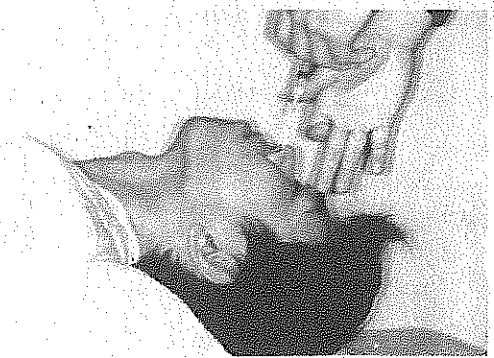
# 嗅覚障害



経が一時的に傷むためと考えられている。不思議なことに中高年の女性がかかる割合が高いという。こうした嗅覚障害の原因が判明すれば治療がしやすい。一般的な方法は、炎症を抑えるステロイド剤の点鼻だ。広島大学病院は、おおむねで鼻の穴が天井を向くほどにした状態で患部にステロイドの懸濁液を注入する方法を採用している。耳鼻咽喉科・頭頸部(とうけいぶ)外科の立川隆治助教は「噴霧式に比べ格段に効果が高いから」と説明する。

ただ20分ほど時間がかかり、つんとする軽い痛みが走る。この手法に慣れた診療所などで受ける必要がある。また、ステロイド点鼻は長く続けると顔が腫れたり発疹が出たりする副作用があるため、回数を減らしながら1〜2カ

## 患部にステロイド



ステロイド懸濁液を注入する治療法の例(広島大学病院提供)

月の治療が望ましい。内視鏡を使う手術も普及してきた。1週間ほどの入院で、炎症を起こした粘膜や腫瘍を取り除く。

月の治療が望ましい。

原因が複合的な場合も事故で頭を打ったときなど、短期間の治療が難しい患者も多い。問診や内視鏡での観察、色々なおいをかき検査方法の発展で、最近では完治する可能性が高まっている。「風邪で嗅覚障害になり、数年かけて治した患者もいた」(広島の立川助教)と、根気強く耳鼻科に通うことを勧める。

原因が複合的な場合も事故で頭を打ったときなど、短期間の治療が難しい患者も多い。

## 内視鏡手術も普及

影響や薬の副作用などがあり、近年焦点になっているのが、運動障害などを起こすパーキンソン病や認知機能が低下するアルツハイマー病との関係だ。これら難病を発症する前に、嗅覚機能が低下するという調査報告が相次いでいる。パーキンソン病では、4年前に嗅覚低下がみられた例もあるという。

嗅覚は味覚とも密接に関係し、料理の複雑な味わいにおいては欠かせない。日常生活に潤いを与えようと香り成分を利用する人も増えている。個人の好き嫌いがあり、時と場所をわきまえない香りは論外だが、普段からにおいに関心を払ってもよそだ。

嗅覚は味覚とも密接に関係し、料理の複雑な味わいにおいては欠かせない。日常生活に潤いを与えようと香り成分を利用する人も増えている。個人の好き嫌いがあり、時と場所をわきまえない香りは論外だが、普段からにおいに関心を払ってもよそだ。

(編集委員 永田好生)

### 【ホームページ】

#### ◆嗅覚障害を引き起こす様々な原因や治療法を分かりやすく解説する「広島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科」(http://home.hiroshima-u.ac.jp/jibika/kyuukakuhougai.html)

### 【本】

#### ◆脳科学の観点から香りと嗅覚に関する研究の面白さを説いた「脳のなかの匂い地図」(森蔵作者、PHP研究所)

### 難病との関係注目

原因が不明の嗅覚障害の研究も進んでいる。他の病気の

原因が不明の嗅覚障害の研究も進んでいる。他の病気の